

■会場

1日目 全体会 11/29(金)

▶神奈川県民ホール大ホール

神奈川県横浜市中区山下町3-1

▶交流会（ワークピア横浜）

- ・みなとみらい線 日本大通り駅3番出口より徒歩8分
- ・JR根岸線・市営地下鉄 関内駅から徒歩約15分



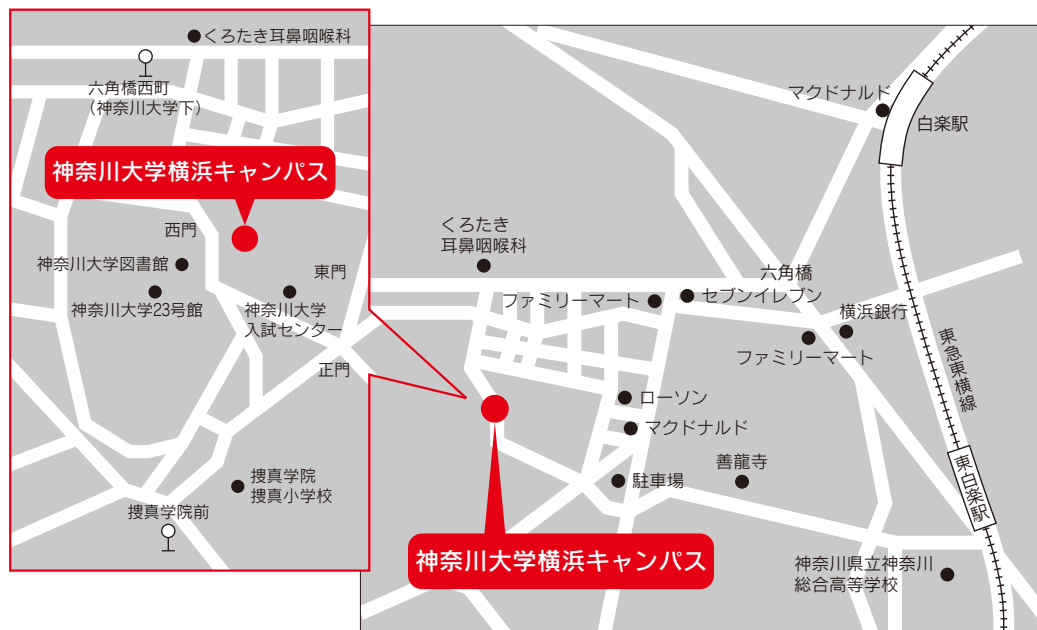
2日目
分科会 11/30(土)

▶神奈川大学横浜キャンパス

神奈川県横浜市中区神奈川区
六角橋3-27-1

- ・東急東横線
白楽駅より徒歩約16分

- ・横浜市営バス
36系統・82系統（乗車時間約17分）
「横浜駅西口」（のりば1）
または「東神奈川駅西口」（のりば5） 発→「六角橋西町」下車徒歩3分
50系統（乗車時間約12分）
「横浜駅西口」（のりば3）
発→「捜真学院前」下車徒歩約8分



◆共同代表

沖縄大学名誉教授 加藤彰彦／神奈川県農業協同組合中央会・連合会 会長 長嶋喜満／神奈川県生活協同組合連合会 代表理事会長 富貝伸一／日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会 理事長 古村伸宏

◆実行委員会

神奈川県農業協同組合中央会／神奈川県生活協同組合連合会／神奈川県労働者福祉協議会／神奈川県漁業協同組合連合会／神奈川県森林組合連合会／神奈川ワーカーズ・コレクティブ連合会／城南信用金庫／やまゆり生活協同組合／生活協同組合バルシステム神奈川ゆめコープ／企業組合ワーカーズコープ・特定非営利活動法人ワーカーズ・コレクティブ協会／特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川／特定非営利活動法人かながわ外国人すまいサポートセンター／特定非営利活動法人よこはま地域福祉研究センター／一般社団法人インクルージョンネットかながわ／公益社団法人フードバンクかながわ／川崎医療生活協同組合／一般社団法人日本協同組合連携機構／生活協同組合コープ／生活クラブ生活協同組合／特定非営利活動法人川崎市民石けんプラント／かながわフロンティア・ネットワーク／株式会社神奈川機関紙印刷所／寿支援者交流会／特定非営利活動法人参加型システム研究所／一般社団法人ベガサス／特定非営利活動法人コースポート横浜／株式会社大川印刷／社会福祉法人進和学園／街の家族／日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会／一般社団法人日本社会連帯機構／一般社団法人協同総合研究所／日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会センター事業団

◆後援

都道府県：神奈川県 市町村：横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市・平塚市・鎌倉市・藤沢市・小田原市・茅ヶ崎市・逗子市・三浦市・秦野市・厚木市・大和市・伊勢原市・海老名市・座間市・南足柄市・綾瀬市・葉山町・寒川町・大磯町・二宮町・中井町・大井町・松田町・山北町・開成町・箱根町・真鶴町・湯河原町・愛川町・清川村
後援企業・団体：神奈川新聞社・神奈川県中小企業家同友会・神奈川県保険医協会

◆お問い合わせ

電話 045-341-4192 FAX 045-260-5558 E-MAIL kyodo2019@roukyou.gr.jp

当日連絡先 090-3228-9471

実行委員会事務局 神奈川県横浜市中区伊勢佐木町2-66 満利屋ビル8F ワーカーズコープ・センター事業団神奈川事業本部内

1日目フードライブを実施します

フードライブの対象となる食品は、「常温で保存できるもの・開封されていないもの・賞味期限が明示され残り2か月以上あるもの（酒類は除く）」です。参加にあたってのご持参にご協力ください。



■参加費

2日間通し 4,000円

1日目のみ 3,000円

2日目のみ 2,000円

交流会 6,000円

※学生・障がい者は上記の半額となります。（交流会は除く）

※移動分科会は別途費用がかかります。定員もありますので、ご希望の方は事務局までお問い合わせください。

■お申し込み

HP:<https://kyodo-net.roukyou.gr.jp/2019/>



お申し込みはこちらから



11/29(金) 全体会 12:10~17:30

- 11:00 展示・物販
- 11:40 開場
- 12:10 オープニングパフォーマンス（ラッパー FUNI）
- 12:25 開会（共同代表、来賓あいさつ）
- 12:40 かながわCO-ネット（神奈川協同組合連絡協議会）の紹介・取り組み
- 13:25 記念講演&トーク
- 15:15 パネルディスカッション
- 17:05 全体会まとめ
- 18:00 交流会（ワークピア横浜）

1日目、フードライブを実施します

記念講演 & トーク

いま、「共に生きる」を問う

～ファインダー越しのいのち～

安田菜津紀さん
フォトジャーナリスト

インタビュー
古村伸宏さん
日本労働者協同組合連合会理事長

パネルディスカッション

コーディネーター パネリスト



加藤彰彦さん 沖縄大学名誉教授
裴安 (裴安)さん 特定非営利活動法人かながわ外国人すまいサポートセンター理事長
大川哲郎さん 株式会社 大川印刷 代表取締役
山本菜々子さん 株式会社 創造集団 440Hz取締役

2019
11/29金・30土

11/30(土) 分科会 9:30~15:30

20の分科会に分かれて開催します。各分野での実践を交流し、協同の可能性を一緒に考えていきます。
※移動分科会は別途費用がかかります。定員もありますので、ご希望の方は事務局までお問い合わせください。

分科会の詳細は中面をご覧ください▶▶▶

会場

全体会 11/29(金)

神奈川県民ホール大ホール

分科会 11/30(土)

神奈川大学横浜キャンパス 他

11/30㊥分科会案内

- マーク説明
- コ

コーディネーター
- コ

コメントーター
- パ

パネリスト
- 報

報告者
- 調

講演者
- 視

視察先
- 司

司会
- イ

インタビュアー

1協同組合と社会的連帯経済

～多様な人のつながりから持続可能な地域づくりへ～

調

徐鐘植〔ソ ジョンシク〕
〔韓国社会的企業振興院〕

パ

田中夏子〔農園[Vento e Terra 風と土]〕

パ

高橋巖〔日本大学生物資源科学部教授〕

パ

青竹豊〔(一社)日本協同組合連携機構〕

報

井出徹〔JAさがみ〕

報

大石高久〔(公社)かながわ生き活き市民基金〕

報

藤田誠〔(公社)フードバンクかながわ〕

報

岩本真実〔(特非)ヒューマンフェロシップ〕

コ

前田健喜〔(一社)日本協同組合連携機構〕

資本主義経済に対するオルタナティブとして、人びとの協同・連帯により持続可能な社会の創造をめざす社会的連帯経済の運動が注目を集めています。世界の事例から学び、日本における実践から可能性を探り、協同組合、NPO／NGO、多様な組織や個人が参加する新しい地域経済のあり方を展望します。

多文化共生 ちがう、かかわる、ともに生きる

パ

金迅野〔キム ジンヤ〕
〔マイノリティー宣教センター〕

パ

藤井克徳〔きょうされん〕〔予定〕

パ

高沢幸男
〔寿支援者交流会／(一社)インクルージョンネットかながわ〕

コ

加藤彰彦〔沖縄大学名誉教授〕

“共生” —いのちの根源であるこの言葉の意味が蔑ろにされる事態が、神奈川で、全国で起こっています。歴史的過去を清算し切れないまま隣国を罵り、人々の不安や閉塞感を増大させ、差別や排除、ヘイトと結びつき忌まわしい事件へと連なる社会。いま、ここに、ともに生きる希望を見出すにはどうしたらよいかを考えます。

2中華街から寿をめぐる

パ

内村恵〔ワーカースコープ〕

パ

松本裕文〔(特非)登ヶ崎支援機構〕

コ

高沢幸男
〔寿支援者交流会／(一社)インクルージョンネットかながわ〕

横浜の“光”中華街、なぜかその傍に“陰”寄せ場・寿町がある、という人がいますが、歴史的認識としては不正解です。社会的排除リスクが高いものが流動する下層として集められ、そこで生き抜いてきたことをみんなで考えます。

3外国人のくらし

パ

藤井克子
〔愛知県高齢者生活協同組合〕

パ

上江洲恵子
〔愛知県高齢者生活協同組合ケアセンターほみ〕

パ

丸谷士都子〔ビビンバネット〕

パ

白聖壘〔ハク セイショウ〕
〔多文化ユースプロジェクト〕

コ

裏安〔ペイ アン〕
〔(特非)かながわ外国人すまいサポートセンター〕

4月の入管法改正で、新たに多くの外国人労働者が日本で働き生活するようになりました。そのことで新しい問題、課題が生じるように言われますが、実はそれは古くから日本に住む外国人が抱えてきたことです。外国人の日本での生活の歴史を振り返りながら現況について検討し住民としての未来について語り合います。

4障害のある人が主体者となり、ともにくらし、ともにはたらく

パ

木村志義〔(一社)ベガサス〕

パ

名里晴美〔(社福)訪問の家〕

パ

相馬義文
〔横浜YMCAワークサポートセンター〕

コ

阿部寛〔生存戦略研究所むすび〕

「優性保護法」が廃止され、「障害者差別解消法」が施行された後に起こった相模原殺傷事件。この事件は私たちに何を投げかけているのでしょうか。「医療から生活へ」「施設から地域へ」と世界が動く中、障害のある人が主体者となり、ともに生きる社会を創っていくにはどうすればよいのか、ともに考えます。

共に生きる社会づくりへ ～人と人、人と自然のかかわり～

調

辻信一
〔明治学院大学国際学部教授／環境・文化活動家〕

調

新井利昌〔埼玉福興株式会社〕

コ

香川秀太
〔青山学院大学社会情報学部准教授〕

グローバル化に対抗する、自然や人間が共に在るための、新たな社会とは。
“自然”や“農”が育む“人と人”のつながりとは何か。
また、埼玉での“農”、“農福連携”をはじめとする活動から、これからの社会の在り方を学びます。

5都市から地域循環共生社会をデザインする

パ

井上朝陽〔(社福)進和学園〕

パ

〔公園のまちフチノベ部〕

パ

河岸茂樹〔横浜市環境創造局〕

パ

石田裕人
〔ワーカースコープ墨田たもんじ農園〕

コ

香川秀太
〔青山学院大学社会情報学部准教授〕

コ

川原隆哲
〔ワーカースコープ東京南部事業本部〕

都市のなかに、どのような人と自然のかかわりを取り戻すのか。都市への人口集中時代における自然、潜在自然植生の森づくりと市民の関わりを考えます。

6懐かしくて新しい農のレシピ ～タネ、ネットワーク、CSA～

パ

片柳義春
〔農業生産法人なないろ畑株式会社〕

パ

小林宙〔鶴瀬種苗流通プロモーション〕

パ

宮坂和彦
〔㈱ミヤサカのタネ／三浦半島食彩ネットワーク〕

パ

黒田康夫
〔ワーカースコープ埼玉北部地域福祉事業所〕

コ

伊豫軍記
〔かながわフロンティア・ネットワーク〕

コ

新井利昌〔埼玉福興株式会社〕

コ

佐々木政行
〔ワーカースコープ事業推進本部〕

日本農業は、TPPや欧州連合とのEPA、人口減少と担い手高齢化など、内憂外患ですが、「種（タネ）」を守る取組みや異業種交流ネットワークによる地域力の再生、新たな農のあり方への模索など、新しい時代を予兆させる実践が始まっています。次世代へと繋ぐ若者などの取組みに学びます。

7地域協同で持続可能な地域を創る

パ

清水真理子〔(特非)川崎市民石けんプラント〕

パ

田中拓哉〔(一社)八王子協同エネルギー〕

パ

鈴木友和〔(株)パルシステム電力〕

パ

安居院賢治〔JAはだの〕

コ

桜井薫〔生活クラブ生活協同組合〕

コ

内藤努
〔生活協同組合パルシステム神奈川ゆめコープ〕

地域資源を生かした住民、市民の協同による持続可能な地域づくりへの取組み—獣害対策や、新しい再生可能エネルギー等の実践—が、地域協同によってどのように持続・継続していくのかを考えます。

8新たなコミュニティを創造する

パ

〔(一社)藤野エリアマネジメント〕

パ

植田悦史〔(特非)まちづくり夢百笑〕

パ

竹森幸太
〔ワーカースコープ登米地域福祉事業所〕

コ

玉木信博〔(一社)日本社会連帯機構〕

地域に根ざした持続可能で豊かな循環型の新しいコミュニティづくりを、宮城県登米市、神奈川県相模原市藤野町、岡山県赤磐市での取組みや、エコビレッジの取組みから展望します。

9横浜の地産地消と出会う

報

佐藤弘美
〔(企)ワーカースコープキュービック〕

報

大久保明美
〔生活クラブ生活協同組合〕

視

相澤広司〔相澤良牧場／JA横浜〕

コ

安村碩之
〔かながわフロンティア・ネットワーク〕

大都市横浜は、意外にも野菜、果樹、花等多くの農畜産物が生産され、主に市内の直売所を中心に販売されています。横浜産食材を使った地域での協同組合間協同の実践を学びとともに、都市農業の現場を巡り、地産地消と食の安全・安心について考えます。

就職氷河期問題から地域共生社会を考える ～生きづらさから生き心地のよい地域づくりへ～

調

雨宮処凛〔作家〕

イ

菊地謙〔ワーカースコープちば〕

調

片山睦彦〔藤沢市福祉健康部〕

調

高見広海〔長後ファイト実行委員会〕

司

南出吉祥〔岐阜大学地域科学部准教授〕

深刻化する8050問題、少子高齢化や人口減少など、生きづらさや課題が多様化する中、就職氷河期問題が政策課題として取り上げられ、その支援が「本格化」します。様々な課題を抱えながらも知恵を出し合い世代を超えた居場所をつくる実践、当事者のリアルな声から学び、誰も置き去りにしない地域づくりについて考えます。

10子ども・若者の学びと育ちを考える

パ

吉澤肇〔くすのき広場〕

パ

岩室晶子〔(特非)ミニシティ・プラス〕

パ

宮本早苗〔(特非)さくらんぼ〕

コ

走井洋一〔東京家政大学家政学部教授〕

コ

小白井加代子
〔ワーカースコープ北関東事業本部〕

地域社会が変化し地域の課題やニーズが多様化している中、子どもや若者が地域で主体となる居場所づくりや取組みが広がっています。子どもの権利である豊かな学びと育ちについて焦点を当てて、住民一人ひとりが主体的に支え合い地域とともに創っていく地域共生社会を考えます。

11社会的孤立を生まない多様な支援の仕組み

パ

丸山康彦〔ヒューマン・スタジオ〕

パ

小園弥生
〔男女共同参画センター横浜南(めぐカフェ)〕

パ

梅田達也〔(特非)ことぶき介護〕

コ

雨宮処凛〔作家〕

コ

扶稲文重
〔ワーカースコープ東京三多摩山梨事業本部〕

引きこもりや不登校に限らず、社会から孤立している人が世代を問わず増えています。個人の問題としてではなく、孤立が生まれる社会に目を向け、多様な支援の実践から、社会的孤立を生まない支え合いの仕組みや地域づくりについて考えます。

12地域でつながる暮らしと住まい

パ

清水弘子
〔(認定特非)かながわ福祉移住サービスネットワーク〕

パ

齋藤和子
〔ワーカースコープ戸塚であいの家〕

パ

成田慎一〔三浦市社会福祉協議会〕

パ

小笠原弘〔街の家族〕

コ

片山睦彦〔藤沢市福祉健康部〕

コ

松川由実
〔(特非)ワーカース・コレクティブ協会〕

「住み慣れた地域で暮らしたい」という願いをかなえるために、地域の人が集うサロン、一緒に作っていく交流スペースなどのある多世代型・開放型の住まいづくりや、地形的・環境的に交通不便で買物その他の外出困難な地域での移動支援といった住民と共に困りごとを解決する実践から学びます。

13人生100年時代のサバイバル 働くコトは生きるコト ～協同労働・ディーセントワーク～

調

藤田孝典〔(特非)ほっとプラス〕

調

佐塚玲子〔(特非)よこほま地域福祉研究センター〕

調

相良孝雄〔(一社)協同総合研究所〕

パ

木下史郎
〔ワーカースコープWORKERS NET RINGS〕

パ

木村満里子〔神奈川ワーカース・コレクティブ連合会〕

パ

〔働楽(はたらつく)就労支援センター〕

パ

平尾弘子〔(企)ワーカースコープ・キュービック〕

パ

中村久子〔(特非)ワーカース・コレクティブ協会〕

パ

鳴海美和子〔ワーカースコープ神奈川事業本部〕

パ

神原薫〔リンクライン〕

働き方改革でなく「働かせ方改革」が進むなか、働く人が働き方を自己決定する協同労働と、ディーセントワーク—人間らしく働く—を考えます。またワークショップを通じて、自らの「働くコト」の意味やとりまく社会と向き合い、一人ひとりがどのように生きたいのかも深め、交流します。

14続・限界と常識を超える、市民主体・共生の地域づくり ～分かち合いと循環に価値をおく地域の自治・産業・経済・文化～

パ

宮垣均〔兵庫県豊岡市コウノトリ共生部〕

パ

佐藤学〔北海道夕張市地域振興課〕

パ

岩田祥和〔小田原市市民部〕

パ

小林千尋〔山梨県西桂町町長〕

コ

板持周治〔島根県雲南市政策企画部〕

コ

古村伸宏〔日本労働者協同組合連合会〕

持続可能性をキーワードとする地域づくりが叫ばれる中、市民の自治・自然との共生を真ん中に、地域の豊かさを暮らしと生業の中に見出し、地域の個性を輝かせる産業と、規模の成長とは一線をひく地域経済の創造こそが求められます。その挑戦の最前線の地域が集い、豊かな地域文化を語り合います。

15ヨコハマメリーから見た戦後の歴史 ～あなた知ってる？ 街から消えた伝説の女(ヒト)～

調

中村高寛〔映画監督〕

パ

山崎洋子〔作家〕

パ

安藤和夫〔家具作家〕

コ

藤田徹〔(一社)日本社会連帯機構〕

映画「ヨコハマメリー」、人生の深みと温かさが、心をゆるがす感動の物語。戦後50年間娼婦としての生き方を貫いたひとりの女。いつしか横浜の街の風景の一部となっていた。映画の鑑賞とともに、戦後、横浜の共生の歴史を学びます。

16沖縄・福島 ～地域から民主主義を育てる～

パ

武藤類子〔福島原発告訴団〕

パ

具志堅秀明〔ワカゲノイタリ村〕

パ

瀬戸大作〔避難の協同センター〕

パ

仲兼久周子
〔ワーカースコープ沖縄北部地域福祉事業所〕

コ

加山久夫〔明治学院大学名誉教授〕

コ

田中真人〔(特非)参加型システム研究所〕

様々な分断を超えてつながりを再構築し、地域をまもり、地域をつくる取り組みをしている福島・沖縄の皆さんが、その活動や思いを語ります。また、首都圏に福島から避難してきた皆さんに寄り添う活動にも焦点をあてます。

17相模原の里と水 ～私たちの生活と自然環境の保全～

視

石黒雄一
〔神奈川県水産技術センター内水面試験場〕

視

藤井智〔予定〕
〔(認定特非)文化学習協同ネットワーク〕

神奈川県北の豊かな自然環境のもと、若者の学習生活などを支援している文化学習協同ネットワークの風のすみか農場（ニローネ）と、淡水魚の増殖や養殖、保全、河川環境を研究・開発する神奈川県水産試験技術センターを訪問します。

18里山の役割を見直し、報徳思想を学ぶ

視

辻村百樹〔㈱T-FORESTRY〕

視

草山明久〔報徳二宮神社〕〔予定〕

燃料革命により、里山と人間のかかわりは大きく変わりました。里山のもつ役割が大きく失われ、里山の価値が忘れられてきました。里山としての役割を学び、数百年単位の永続的な美しい森創りを小田原の辻村山林を巡り学びます（2時間程度山の自然を歩きます）。そして、報徳思想に立ち返り、忘れ去られた現代の思想を考える契機としていきます。

19神奈川の森林、山地酪農から、循環経済を考える

調

近藤亮介
〔Bioフォレストेशन株式会社〕

視

カ石清一〔神奈川県森林組合連合会〕

視

川口誠〔神奈川県森林組合連合会〕

視

島崎薫〔薫る野牧場〕

神奈川の森林から、木材の加工、販売までの流通、木材(低質材)を燃料木質チップとしてバイオマス発電に生かすまでの経緯と展望。山北町の自然の中で牛を放牧し、牛で踏み固められた野草を食べさせ化学肥料のいらぬ山地(やまち)酪農に挑む一人の女性のストーリー。薫る野牧場を実際に歩きながら見学します。2つの現場から循環経済を考えます。

20鎌倉・藤沢地域で紡がれる『協同』を巡る ～鎌倉市農協連即売所・藤沢市漁業協同組合・藤沢市内でのこども食堂等への活動支援～

視

石井喜明
〔鎌倉市農協連即売所〕

視

葉山一郎〔藤沢市漁業協同組合〕

視

越川正興〔藤沢市福祉健康部〕

国内での農産物直売所の先駆けである鎌倉市農協連即売所、ハマグリ資源復活に尽力し名産品に育てあげた藤沢市漁協、藤沢市内で展開されているこども食堂等へ農産物を届ける取り組み等について現地を訪ねて実践者と交流し、鎌倉・藤沢市内での地域生活を支え歴史を紡いできた『協同』を巡ります。